



ろうさい連携だより

2020.1
第 32 号

病院の理念

満足と納得が得られる医療の実践

- 地域医療支援病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 災害拠点病院
- 臨床研修指定病院
- 日本医療機能評価機構認定病院

基本方針

- 1 患者さんの安全と安心を第一に考える医療を提供します
- 2 患者さんの権利を尊重し、思いやりのある医療を実践します
- 3 科学的根拠に基づく質の高い医療を提供します
- 4 地域の方々と勤労者の健康管理を支援します

年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。昨年中は、東北労災病院との医療連携につきまして多大なご協力とご厚情を頂きました医療施設あるいは介護施設の皆様に改めまして御礼申し上げます。本年が皆様方にとりまして素晴らしい一年になることをご願申し上げます。

さて、昨年も台風が頻繁に発生し多くの災害をもたらしました。世界的にも気候変動によると考えられる異常気象や災害が地球各地に起きていることから、若い環境活動家が中心となって近未来に迫った地球の抱える温暖化の大きなリスクを強調し、同時に政治の無理解や消極性を激しく批判しています。また多くの地域や国で自国主義の台頭、尽きないテロや紛争、政情不安など、人類が直面している問題は深刻さを増しさらに悪化しているようです。また民主主義的価値観の衰退と言って過言ではないような事態が国内外問わずよく見受けられます。いま世界中の物事が瞬時に伝わってしまう、そして技術の著しく進歩した現代ウェブ社会は恩恵をもたらすと同時に、このような問題が山積していますが人類は解決能力が欠乏しているようです。



院長 徳村 弘実

さて、医療界も似たような事態が起きていないでしょうか。超高齢化と地域過疎化、社会保障費の増大、医療費の上昇、医療技術の日進月歩とそれに伴う医療レベルの著しい向上し国民の医療への期待は高まる一方です。その中で、病院医療は、地域医療構想による診療報酬の抑制や病床の適正化、設備など投資の増加そして診療レベルのとどまることのない向上、そして医師の働き方改革にとハードルの高い課題に直面しています。これまでの場当たり的な処方箋をやめ、医療全体がどうあるべきかを議論する場に叡智を結集ししかも大鉦を振るう時期が目前に迫っていないでしょうか。働き方改革と地域医療構想を推進しながら地域医療の一翼を担い、医療の質向上と安全、地域包括ケアシステムの構築を図るためには、病院を含めたすべての医療介護系施設を密に連携網を構築する、いかなる施設も巨大ネットワークの位置中継点にすぎないのです。

目次

- p1 年頭のご挨拶 地域医療連携センターから
- p2-p12 診療科紹介
- p13 東北労災病院外来診療担当表

当院は、急性期入院加療・救急・がん診療を三本柱に診療を、登録医の先生を中心とした連携によって展開しています。昨年は婦人科常勤医を迎え、腫瘍内科と心療内科がそれぞれ2名と増員され多様な患者が集まりつつあります。多数の内視鏡治療、整形外科手術や消化器外科手術、年間4200年を超える救急応需に裏打ちされた急性期病院として、緩和医療を含めたがんの総合的診断治療や外来診療が中心となる分野までカバーする総合病院の在り方を追求しつつ、25診療科、7つのセンターを擁しています。同時に、地域包括ケア病棟では他病院よりサブアキュートそしてレスパイト患者を受け入れ地域包括ケアシステムに貢献しています。また、政策医療として労災疾病等に関する予防研究、リハビリテーション、職場復帰に至る一貫した治療と就労の両立支援を当院は果たしております。今後は、1月から腎臓内科が常勤医化しました。また来年度より長年の懸案だった総合診療科が作られる予定です。各診療科に専攻医も増員されます。

当院職員として基本理念は、病める人々を愛する、向上、勤労を愛し病院を愛する、そして患者さんの立場と視点を重視して納得と満足の医療を実践することです。診療現場において多職種によるチーム医療を行い医療安全がさらに高めます。病院は複雑な有機体ではありますが、職員全員が一丸となって「一艇ありて一人なし」「一人なくして一艇なし」の精神で医療に取り組んでまいりたい。同時に職員皆が、生き生きとやりがいを持って笑顔で正直に一生懸命そして謙虚に取り組むよう努力します。今後も出来る限りの誠実な医療を社会に提供したいと考えています。

今年もよろしくお願いたします。

地域医療連携センターから

人事異動のお知らせ

採用	R2.1.1付	
腎臓内科	神田学	丁寧な診察を心がけていきます。よろしくお願いいたします。

退職	R1.11.30付	
ヘルニア外科	野村良平	

月別紹介患者数

	紹介患者数 (人)	逆紹介患者数 (人)
令和1年9月	1,118	659
令和1年10月	1,190	712
令和1年11月	1,096	731

東北労災病院 診療科紹介

(2020年1月現在)

地域医療連携センター

TEL 022-275-1467

FAX 0120-772-061



胃腸内科部長
はまだ しろう
濱田 史朗

胃腸内科・内視鏡センター

日頃から胃腸内科及び内視鏡センターをお引き立ていただき誠にありがとうございます。

内視鏡センターでの上部消化管内視鏡検査は、予約なしでも対応しており、朝食を摂らなければ原則的に当日の検査が可能です。但し、待ち時間の苦手な方は日程調整の上で後日の予約をお勧めします。また内視鏡が苦手・苦痛と感じている患者様には適宜鎮静剤や細径の内視鏡を使用することで、苦痛のない検査を受けていただくことが可能ですので医師または看護師に気軽に相談してください。

またご希望により経鼻内視鏡も可能です。また昨年度から仙台市でも内視鏡による胃がん検診が導入されました。当院でも多数受診されておりますが、本年度も電話予約の上ご活用いただければと思います。大腸検査は検査食や下剤が必要のため予約制ですが、数週間も検査待ちになるようなことはありません。

遠方に在住している場合や高齢で通院が困難な患者様には入院の上で大腸検査を受けていただくことも可能です。最近注目されている逆流性食道炎やピロリ菌の除菌療法についても解りやすい説明を心掛けておりますので、遠慮なく申し出てください。

また食道がんや胃がん、大腸がんについてもがん診療連携拠点病院として長年多数の患者様に向かい合ってきた実績もありますので、診断から各種治療まで幅広く相談に乗ることができると自負しております。どうぞ安心してご相談ください。

また近年増加傾向にあるクローン病や潰瘍性大腸炎に関しても大腸肛門外科と連携してIBDセンターを立ち上げ、薬物療法などをはじめとする最新の治療を提供しております。ぜひIBD専門医にご相談ください。



肝臓科部長
副院長
あべ なおし
阿部 直司

肝臓科

肝臓内科は、消化器疾患のうち肝疾患、胆・膵疾患を担当しております。

肝については、ウイルス性・代謝性・薬剤性・アルコール性などの様々な肝疾患を、急性期から肝硬変まで広く扱っております。以前から慢性C型肝炎例が多数で、近年では経口剤(DAA)治療で高い奏効率を得ております。

肝細胞癌の治療例も多く、経動脈的塞

栓術・ラジオ波焼灼術などに加え分子標的治療薬を用いた治療も行っております。胆道系疾患の中では、胆嚢や胆管の結石が多数ですが、特殊な炎症・悪性腫瘍も増加しています。

急性・慢性膵炎から進行膵癌まで、膵疾患にも幅広く対応しております。黄疸症例には、すべて対応可能ですので、御紹介ください。



腫瘍内科部長
がんセンター長・
病院長補佐兼任
ただ しげる
丹田 滋

腫瘍内科

当院腫瘍内科の最近の話題はなんといっても昨年9月に森川直人副部長が赴任されたことです。森川先生はがん薬物療法専門医と呼吸器専門医の資格を持つがん治療のベテランであるとともに前任地の東北大学病院緩和医療科では緩和ケアチームの一員として活躍されてきました。

これまで通り、乳がん・消化器がん・悪性リンパ腫・原発不明がんなどが主な担当範囲となりますが、森川先生の経験を生かして、発展著しい各がん種の免疫チェックポイント阻害薬治療や副作用対策、進行がん患者さんの生存期間の延長とともに頻度が増えている骨転移の診断と治療、診断早期から当院緩和ケア内科・緩和ケアチームと連携して各種支持療法・意思決定支援・緩和ケアにも注力してい

きます。

また最近話題の「がんゲノム医療」については東北大学病院各診療科との連携を密にして提供体制を整えていきます。リレーフォーライフジャパンみやぎ、各種がん患者団体、サポートイベント、がん教育に対しても積極的に関与・支援していく所存です。

2018年の「連携のつどい」でご紹介したように「話がわかる/痛みなく/標準治療を地域で提供する」を当科開設以来モットーにしてきましたが、森川先生の赴任で「愛される」を付け加えたいと存じます。さらにご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

緩和ケア内科

当院の緩和ケアには以下のような特長があります。引き続き当院へのご紹介をよろしくご願ひ申し上げます。

1) 総合病院の中での緩和ケアの利点

- ・病初期より終末期までの一貫した完結型のがん治療が可能。
- ・抗がん治療期より支持的治療に介入
- ・がん患者の苦痛を外来は自記式、入院はSTAS-J方式でのスクリーニングでの漏れのない拾い上げ。
- ・週5日の外来を開いていることで主治療科との同日併診が可能。

2) 県内で最も強力な緩和ケアチーム

- ・チームによるアドバンスケアプランニング支援。
- ・チーム(緩和ケア内科医、腫瘍内科医、

乳腺外科医、麻酔科医、心療内科医、認定看護師、専門薬剤師、公認心理師、管理栄養士、MSW、がん相談員、音楽療法士、ボランティア)のカンファレンスと週3回の院内回診。

3) 緩和ケア病棟では得られない利点

緩和ケア病棟ほど厳しくない入棟条件

4) プラスアルファのサービス

- ・特に乳がんが多いAYA世代の患者へのがん相談員によるサポート。
- ・音楽療法のサービス
- ・ボランティアによる傾聴などの積極的患者支持システム

5) 緩和ケア病床は個室での対応になりますので個室料が必要です。



緩和ケア内科部長

おがさわら てつお
小笠原 鉄郎

糖尿病・代謝内科

当科診療内容：

糖代謝一般(低血糖含む)、シックデイ対応、急性合併症(低血糖昏睡、糖尿病性ケトアシドーシスなど)、術前～術期血糖管理、外来インスリン導入、インスリンポンプ導入・管理など

糖尿病専門医数は3名であり、移植医療以外はすべての糖代謝に対応可能です。レスパイト入院、緊急入院にも対応いたします。入院が難しい患者様の対応も可能です。

近年インスリンポンプ療法が進歩し、低血糖を予測し自動で注入が停止する機

種を使用する例が増え、最新機種に対応すべく病棟・外来スタッフにも研修を行い、診療スキルを常にアップデートしております。

また免疫チェックポイント阻害薬使用に関連した1型糖尿病や副腎不全の症例にも迅速に対応します。もちろん他科診療中の血糖管理や術期管理なども我々の重要な仕事です。

糖代謝は生命活動の根幹にかかわる重要なシステムであり、スタッフ一同常に研鑽を積みながら数多くの業務をこなし、充実した日々を送っております。



糖尿病・代謝内科部長

ときた あい
鶴田 藍

循環器内科

循環器疾患全般(急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患、心不全、心房細動などの不整脈など)に対応しています。

超高齢化社会を迎えるにあたり、近年、心不全患者が増加し、今後はさらに増加していくと言われております(心不全パンデミック)。そのため、学会は「かかりつけ医向けガイドランス」を作成し、心不全の診断だけでなく、予防や管理などを解説しています。

これからは、心筋梗塞・心筋症・弁膜

症など器質的心疾患患者だけでなく、高血圧や糖尿病などの危険因子を有する方も心不全発症予防が重要です。

胸部症状を訴える緊急性の高い患者さんはもちろんですが、数年間循環器系の検査をしていないとか、クスリがずっと同じだけいいのだろうか、など、日常診療で気になることがありましたら、当科で現状の心機能評価を行いますので、一度受診をおすすめ頂けると幸いです。



循環器内科部長

たなか みつあき
田中 光昭



高血圧内科部長
むなかた まさひろ
宗像 正徳

高血圧内科

寒くなってきました。鍋がおいしく、つい、塩分摂取量が増え、血圧コントロールが悪化してくる時期です。減塩の指導や降圧薬の強化(カルシウム拮抗薬の増量、利尿薬の追加など)が必要となる時期ですが、それでお血圧コントロールが不良なケースはご紹介ください。また、当院では、身体の痛みや障害などで、運動量が低下し、肥満症となり、生活習慣病が悪化した患者さんむけの個別化肥満治療

も開始しました。身体愁訴が強く運動指導がしにくい肥満の患者さんをご紹介ください。痛み、身体機能等を理学療法士が評価し、マンツーマンで患者さんの病態に即した運動指導を行います。

基本、入院が必要ですが、70才を超えた高齢者でも、心肺機能に問題がなければ10kg以上の減量に成功しています。



呼吸器内科
第二部長
さかきばら ともひろ
榊原 智博

呼吸器内科

呼吸器疾患は肺炎、気管支喘息、肺癌、COPD、間質性肺炎、気胸など多種多様ですが、当院では呼吸器疾患全般を対象に診療を行っております。

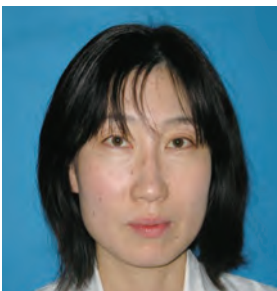
院内では呼吸器外科、放射線治療科、リハビリテーション科、緩和ケア内科など各科と綿密な連携をとり、患者さんに適切なタイミングで検査、治療、リハビリ、緩和ケアが行える体制が整っています。

気管支鏡検査においてはEBUS-GS、EBUS-TBNA、バーチャル気管支鏡などの技術を導入しており、呼吸器疾患の診

断確定につとめております。

また呼吸器疾患は、救急対応が必要な場合が数多くあります。当院ではスタッフが8名在籍しており、常時研修医もローテーションしております。平日時間内だけでなく、平日夜間、土日も当番制を敷いており、可能な限り即日対応ができる体制で診療にあたっております。

呼吸器疾患が疑われる場合は、ご一報いただければ迅速に対応いたしますので、是非ご紹介ください。



呼吸器外科部長
ほさか ともこ
保坂 智子

呼吸器外科

呼吸器疾患全般(原発性肺癌、転移性肺腫瘍、若年者から高齢者までの気胸、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍、膿胸等)の手術を中心に呼吸器内科と協力をしながら診療を行っております。

肺癌に対しては完全胸腔鏡下手術も開始しており、症例を選択しながら低侵襲の手術を心がけております。

縦隔腫瘍も以前施行していた胸骨正中切開アプローチによる手術ではなく、胸腔鏡送気下でのより低侵襲手術を行っております。

手術の時は東北大学病院呼吸器外科医局より応援に来て頂き、これまで10年以上、術関連死はありません。また、当院では呼吸リハビリも積極的に取り入れており、入院後術前日まで、また術翌日よりベッドサイドにてリハビリを行っており、患者様には大変満足していただいております。

今後も頑張りますので、様々な患者様をご紹介をいただけますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

心療内科

2019年4月から心療内科が医師2名体制となり、12年間勤務した東北大学病院心療内科での経験を活かして診療を行っております。

対象疾患は心身症、ストレス関連疾患、摂食障害、機能性消化管障害など多岐にわたり、検査で異常がない原因不明の身体症状、いわゆる Medically-Unexplained Symptom の診療も専門にしています。病態が良く分からず、何科に紹介すべきか迷うような総合診療科的な症例にも対応しておりますので、ぜひ御相談下さい。

体制変更に伴い入院治療も積極的に進んでおり、特に摂食障害についてはBMI<10のような最重症例から軽症例に対する教育入院まで幅広く対応しております。

県内で心療内科の入院治療を行っている施設は東北大学病院以外では当院のみであり、県内外を問わず入院患者を受け入れたいと考えております。

この連携だよりをお読み頂いた先生方からの御紹介を、心よりお待ちしております。



心療内科部長
勤労者メンタルヘルス
センター長兼任
まちだ たかつぐ
町田 貴胤

小児科

仙台市北部地域で入院施設を持つ唯一の小児科として、主に地域の医療機関よりご紹介いただいた小児の診療を行っています。

感染症の診断治療は当科の強みですが、迅速検査やグラム染色によってできる限りその日のうちに治療方針を決定し、さらに耳鼻咽喉科との協力のもと、急性中耳炎をはじめとする合併症の早期治療を心がけております。

一方、腎疾患の診療に関しては、血尿・蛋白尿等の尿異常、尿路感染症、夜尿症の診断治療を行い、さらに仙台市3歳児検

尿制度の二次精密検査施設(腎臓専門医療機関)として一次精密検査陽性者を受け入れ、先天性・遺伝性腎疾患など慢性腎臓病ハイリスク児の早期発見に努めています。

また地域から当科への乳児健診の希望が強いことから、予防接種、栄養指導をはじめとした育児支援にも力を入れ、生後1カ月児より積極的に行っております。

皆様のご期待に沿える小児科を目指しておりますので、ご紹介の程よろしくお願いたします。



小児科部長
ちば やすし
千葉 靖

消化器外科

連携医の先生方には日頃から多くの症例をご紹介いただいております。あらためて御礼申し上げます。

さて当科で主に行われている手術は、胃・大腸の悪性腫瘍手術、胆石などの胆道良性疾病、ヘルニアなどの良性疾病手術、肝胆膵悪性腫瘍手術、虫垂炎・腸閉塞などの腹部救急疾患の手術であります。そのなかでも創が小さく術後の回復にも優れている腹腔鏡下手術は腹部手術の6

割以上を占めるようになり、充実したスタッフと3Dビデオスコープ、赤外線スコープなど最新・最高の映像システムにより、特に癌の手術では根治性と安全性の極めて高い手術を行っています。

当科では急患にも柔軟に対応していますので、連携医の先生方には急性腹症のような患者さんを診られましたら遠慮なくご連絡いただきますようお願い申し上げます。



消化器外科部長
なるしま よういち
成島 陽一

大腸肛門外科

大腸肛門外科は、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)の外科治療と各種肛門疾患の外科治療を二本柱に診療を行っています。潰瘍性大腸炎に対しては大腸全摘・回腸肛門吻合術のみならず、術後合併症に対するサルベージ手術も手がけています。

クローン病では腸管狭窄や瘻孔に対する腹部手術や高率に合併する痔瘻に対する肛門手術を手がけています。潰瘍性大腸炎・クローン病ともに腹部手術に対しては腹腔鏡手術を積極的に施行し早期の社会復帰を果たせるように努めています。

肛門疾患では、いぼ痔(痔核)や切れ痔

(裂肛)、痔瘻といった三大肛門疾患の手術に加え、直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術も多く手がけています。

当院の肛門診療の特色としては、肛門内圧測定や排便造影などの専門的な検査を行っていること、全身麻酔での手術も行えることから心疾患等で抗凝固薬内服中の患者さんにも対応できることが挙げられます。

「たかが痔。されど痔。」

手術による患者さんのお悩み解決の満足度は高いようです。お気軽にご相談ください。



大腸肛門外科部長
IBDセンター長兼任
たかはし けんいち
高橋 賢一



乳腺外科部長
病院長補佐兼任
ほんだ ひろし
本多 博

乳腺外科

当院は日本乳癌学会の認定施設で、登録医をはじめ多くの医療機関よりご紹介をいただいているおかげで手術症例が増え、'19年は乳がん160例を含む200例近くとなりました。この場を借りて感謝申し上げます。

また'17年より日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会の施設認定を得て、東北大学形成外科と共同で乳房再建も行っています。

スタッフは本多と千年(ちとせ)の2名ですが、前任の豊島先生(仙台乳腺クリニック)に月数例手術を、吉田清香先生(乳腺専門医)に木曜外来をお手伝いいただいております。

当科の乳がん診療の特色は、

①週1回の多職種(腫瘍内科・緩和ケア内科・放射線治療科医師、乳がん看護・緩和ケア認定看護師、薬剤師を含む)での乳腺カンファレンスによる情報共有と化学療法や照射・緩和など治療・ケアの相談・決定 ②R I・色素法併用によるセンチネルリンパ節生検と迅速病理診断(リンパ

節2mm切片及び切除断端4方向検索)です。

'18年から乳がん手術全例にリハビリ医師・作業療法士(OT)による術前・術後の評価・運動療法を行っており、MSWを中心とする就労支援やタキサン系抗がん剤投与例のフローズングローブ使用と併せて、社会復帰に対するきめ細かい配慮ができるようになりました。

更に月1回(第2木曜)認定遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリングを行い、適切なリスク評価と説明による不安解消と、BRCA検査やゲノム医療に対応しています。また、AYA世代へのサポートとして、昨年につき、2月1日(土)に当院にてPink Ring Summit(若年者乳がんの会)を開催予定です。

ご紹介の新患の方は、月・火・木・金に連携センターにてご予約可能であり、お待たせしないよう最大限努めております。

今後ともご紹介を何卒よろしくお願い申し上げます。



整形外科部長
副院長
のぶた しんご
信田 進吾

整形外科

当科における平成30年度(2018.4~2019.3.整形外科医師12名)の年間手術件数は2,004件、年間新患数は3,679人、最大入院患者数は135人でしたが、現在は医師8名体制であり手術件数も30%減となりました。

脊椎外科班は、日下部、中村、半田の3名が担当し、頸椎症性脊髄症、腰部脊柱管狭窄症をはじめとする変性疾患、脊椎外傷ならびに脊椎脊髄腫瘍の手術も行なっています。

関節外科班は、信田、小河、奥野、佐藤(諒)、佐藤(雄)、に診療看護師：千葉が加わり6名で、下肢の人工関節置換術、リウマチ関節外科の手術、四肢の骨折、脱臼の治療も行い、末梢神経障害に対す

る神経剥離術/移行術、機能再建術も行います。

四肢の切断/再接着は仙台医療センターに依頼、悪性骨軟部腫瘍は東北大学病院へ紹介、肩関節/膝関節の関節鏡視下手術も現在は行なっていません。しかしながら、関節外科、脊椎外科、四肢の外傷、骨折はこれまで通りに診療を行いますので、患者さんのご紹介を賜りますようお願い申し上げます。

当科への患者さんのご紹介は地域医療連携室を通していただければ円滑に進みますが、手続きが面倒な場合やお急ぎの時には直接ご連絡いただければ、可能な限り対応させていただきます。



脳神経外科・脳卒中科
部長
病院長補佐兼任
かしばら しげき
柏原 茂樹

脳神経外科・脳卒中科

当科は主に脳卒中の診療を行いますが、頭部外傷やてんかんなども診察し、必要であれば入院加療にも対応しております。当院にはCT、MRI、SPECT、頸動脈エコー、脳波など脳卒中やその他の頭蓋内疾患の診断に必要な機器は揃っており迅速な診断と治療の開始が可能です。

脳卒中の患者さんは手術ではなく保存的治療の適応になることが多く、そのような保存的治療の対象となる患者さんの

入院加療を行っておりますが、穿頭術にも対応しておりますので慢性硬膜下血腫の患者さんの手術も受け入れ可能です。

脳疾患は診断がつきづらいものですので、もしかしたら頭かも?と思ってもなかなか脳神経外科へ相談しづらいこともあります。当科ではそのような患者さんの鑑別も含めて診察しておりますので気軽に紹介ください。

皮膚科

皮膚科では湿疹・皮膚炎、じんま疹、白癬などの一般的な皮膚疾患の診療や皮膚腫瘍の外科的な治療、尋常性乾癬、水疱症、薬剤アレルギー、血管炎などの難治な皮膚疾患も診療しています。

入院を必要とする皮膚疾患にも対応しており、帯状疱疹や蜂窩織炎などの感染症、大きな腫瘍切除や膿皮症などの手術、薬疹、中毒疹などの重症な皮膚炎が対象です。

特殊な皮膚科検査としては金属、薬剤、食物アレルギーを調べるパッチテストやプリックテスト、皮膚組織検査、ダーモスコピー検査などをおこなっています。

悪性黒色腫に関しては東北大学皮膚科と連携してダーモスコピーなどで診断をつけ、手術、加療は東北大学に紹介することになっています。また特殊な治療として、ナローバンドUVB照射装置による紫外線療法を行っています。尋常性乾癬や難治な皮膚炎、尋常性白斑などさまざまな皮膚疾患に効果が見られています。

重症の尋常性乾癬やアトピー性皮膚炎、難治性じんましん に対しては生物学的製剤を使用することもあります。

入院が必要な患者さんなどがいましたら皮膚科へご相談いただけますようお願いいたします。



皮膚科部長
たに た むねお
谷田 宗男

泌尿器科

当科は腎 尿管 膀胱 男性生殖器の感染 腫瘍 外傷 機能障害などの診断から治療までを行っています。

また、婦人科と協力して近年注目されている骨盤臓器脱の治療や尿失禁 過活動膀胱(こちらは女性ばかりの疾患ではありませんが)にも対応しています。

腎癌 尿路上皮癌については、手術不能例や化学療法無効例など従来であれば

治療できなかった症例に対して、新しい治療薬である免疫チェックポイント阻害剤を使用した治療を開始し、患者さんの数も増加しております。

泌尿器科の患者さんは高齢化が進んでいます。入院患者さんについては治療だけでなく退院後の生活についてもかかりつけの医療機関と協力して対応に取り組んでおります。



泌尿器科 第二部長
あべ ゆうこ
阿部 優子

産婦人科

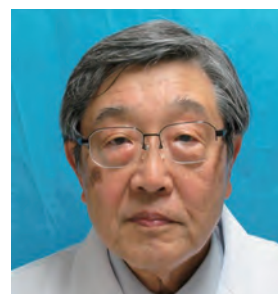
永らく常勤医不在の当科ですが、外来患者さんも着任後徐々に増えてきました。

私の外来日は月曜から金曜(水曜日は予約のみ)、水曜日は教室から女性の先生方に外来をお願いし、女医希望の方の受け入れを可能にしております。頸がん検診2次検診も許可を頂きました。

月経困難症・子宮内膜症とりわけ月経困難症の鎮痛療法、更年期症候群のホルモン・漢方療法はご好評を頂いております。

腹腔鏡下手術は12月には5例と急激に増えております。この調子なら着任時の目標であった、日本産科婦人科内視鏡学会指導施設の認可を受ける年間50例も可能と思えるようになって参りました。当院では現時点での手術待ち期間は1～2週間ですので、宜しく願い致します。

新規受診時は予約を入れて頂くと助かりますが、予約なしのご来院でも結構です。連携施設の先生方には適切な症例をご紹介頂きたくお願い申し上げます。



産婦人科部長
ほしあい ひろし
星合 昊



眼科部長

うえまつ めぐみ
植松 恵

眼科

いつも大変お世話になり誠にありがとうございます。

当科の特徴としては、白内障手術とメディカル網膜の診療があげられます。白内障手術はすべて入院で行っており(基本的には1泊2日)、全身リスクの高い方や難症例、全身麻酔下手術にも対応しております。

令和1年9月より手術日を週2回から週3回に増やしたことで、手術待機時間が短縮しておりますので、入院での手術をご希望の方がいらっしゃいましたら是非

当科へご紹介下さい。

メディカル網膜の診療については、東北大から網膜専門医の応援も頂きながら、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症などに対応しております。特に、加齢黄斑変性、糖尿病黄斑浮腫に対しては、抗VEGF抗体硝子体注射を Treat and Extend を中心に治療しております。

今後も地域の中核病院として役割を果たしていきたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。



耳鼻咽喉科部長

わたなべ けんいち
渡邊 健一

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科医5名(専門医3名)で、耳鼻咽喉科の全領域を対象とした診療を行っています。

特に力を入れているのが耳疾患の治療です。慢性中耳炎に伴った難聴の聴力改善手術や真珠腫性中耳炎に対する鼓室形成術の症例も多く、良い成績をあげています。

重度の難聴に対しては人工内耳手術を積極的に行い、東北地方では最大の症例数となっています。

また鼻疾患においてはオリンパス社の4K内視鏡が最近導入され、クリアな術野の

もと精密で安全な手術が可能です。指定難病となった好酸球性副鼻腔炎の手術も積極的に行っています。さらに喉頭疾患として、音声外科手術(喉頭微細手術、喉頭枠組み手術)を行っています。唾液腺、甲状腺、頸嚢胞といった頸部手術の経験も豊富です。

当院の地域連携室を通じた外来予約枠は火・水・木曜日にありますので、是非ご利用いただきたいです。当日でも紹介状を持参していただいた場合は、待ち時間をご容赦いただいた上で対応いたします。



放射線治療科

副部長

たなべ たかや
田邊 隆哉

放射線治療科

当院放射線治療について

①リニアックによる治療

主に乳癌術後予防照射、前立腺癌根治照射、様々ながんの骨転移・脳転移や上大静脈症候群に対する姑息(緩和)照射などの放射線治療を行っています。

肺癌や肝臓癌に病巣の広がりに応じて三次元原体照射や、より局所制御の効果が高い定位照射(短期間で小範囲に大線量を集中される方法)を行っています。(肝臓癌に関しては金属マーカーが不要な場合に限定。)

上記症例に比べ少ないですが、食道癌(化学療法併用もしくは放射線単独)や声門癌の根治照射も可能です。

他のがんや良性疾患でも当科リニアックでの治療可能な物が多種ありますので、適応についてご質問がありましたら、お

気軽にお尋ね下さい。

当科リニアックで治療困難、もしくは他の放射線治療機器でより質の高い治療が可能な場合は、当科で治療とならない場合でも患者さんに詳しく説明し納得して頂いた上で、他施設へご紹介しています。

②RIによる治療

当科では一昨年よりゾーフィゴ(Ra 223)による去勢抵抗性前立腺癌の骨転移の治療を行っています。当院泌尿器科よりご紹介頂いた患者さんに対して施行しておりますが、まだ対応可能な症例数に余裕がございます。

先生方からのご紹介をお待ち申し上げます。

リハビリテーション科

労災病院のリハビリテーションは、脊髄損傷などに代表されるような、労働災害で障害を負った患者さんのリハビリの長い歴史があります。また当院は、東北でも有数の整形外科の基幹病院で、かつ優秀な脊椎外科、関節外科など充実しており、そのリハビリが行われています。

脳血管疾患も脳神経外科・脳卒中科常勤医師2名体制に増員され、主に脳卒中急性期のリハビリを行っております。

外科手術後の患者さんの早期離床・早期退院に貢献するリハビリや、入院前後に臥床期間を要するような重症患者さんの廃用症候群の予防や回復を図るリハビリも行っています。

循環器疾患に関しましては、心臓リハビリを立ち上げ、心臓リハビリ指導士3名の体制で、心大血管術後の急性期医療に引き続いた入院リハビリや、狭心症・心筋梗塞・心不全の再発予防を図るための外来通院リハビリなどを行っています。循環器疾患患者さんのリハビリでは、可能な方には、心肺運動負荷試験に基づいた科学評価を行って、安全なリハビリの実践に努めています。

外来心臓リハビリ時は主治医が必ず診察し、リハビリ施行前の状態を確認して行っています。

また、がん拠点病院として、担癌患者さんのリハビリにも努めております。期間限定ではありますが、乳がん患者さん

のリンパ浮腫のリハビリなども行っています。

高齢化によって誤嚥性肺炎の疑われる患者さんの嚥下の評価(嚥下像検査など)や訓練も需要も増しております。

主な診療内容(リハビリ対象疾患)

- ・脳卒中、脊髄損傷などの脳神経系疾患
- ・骨関節筋疾患(切断、義歯、装具などを含む)
- ・心大血管疾患(心筋梗塞後、心不全、心大血管手術後)
- ・呼吸器疾患(COPDなど)
- ・がん患者さんのリハビリ(乳癌術後リンパ浮腫や緩和的リハビリも含む)
- ・廃用症候群(救急疾患や外科手術後など急性期病変後)
- ・嚥下障害のリハビリ

ご紹介時のお願い

ご紹介いただく方は、脳卒中、四肢切断、心大血管疾患などの方が対象です。入院・外来希望共に、ご紹介いただく際は、できましたら事前にお電話でご連絡いただきます様、お願い致します。

脳卒中の方は、脳卒中地域連携バス、もしくはスマイルネットをご利用ください。ただし、重篤な内科的疾患や心大血管疾患がある場合は、当科ホームページより専用申込用紙※をダウンロードいただき、ご利用ください。

先生方からのご紹介をお待ち申し上げます。



リハビリテーション科

部長

こまつ つねひろ
小松 恒弘

※専用申込用紙は
こちらから



リウマチ科

2019年4月より当科常勤医は3名から2名に減員となり、常勤医2名、非常勤医1名で約1,200名の患者様の診療を行っています。

疾患の内訳は、半数強が関節リウマチで、残り半数弱がその他の膠原病・膠原病類縁疾患であり、全身性エリテマトーデス、強皮症、シェーグレン症候群、混合性結合組織病、多発性筋炎/皮膚筋炎、脊椎関節炎、リウマチ性多発筋痛症、掌蹠膿疱症性骨関節症、血管炎症候群、成人スティル病、再発性多発軟骨炎などとなっています。

このように、これまで当科では、リウマチ膠原病全般の診療に当たらせていただいておりますが、常勤医の高齢化や体調面の問題に加え常勤医の減数・後任不足、働き方改革の影響、膠原病診療に必要な専門診療科の不足(血液内科や神経

内科など)に対し求められる医療の高度化など、諸般の事情で、現在の人員でこれまでと同様の医療の提供が難しくなっているのが実情です。そのため、現在は基本的には関節リウマチ以外の膠原病の診療を停止しております。ご迷惑をおかけいたしますが、当面はご容赦いただければ幸いです。

関節リウマチに関しては、関節MRI、関節エコーを用いて早期診断を心がけ、また、早期の臨床的、構造的寛解の達成を目標に、リスク評価を行った上で、生物学的製剤・JAK阻害剤を積極的に導入しております。また、当院の整形外科とも連携し、最先端の医療を提供できるよう努力して参りたいと思っております。

病状の安定した患者様は、近隣の先生方に連携をお願いしたいと存じますのでよろしくご依頼申し上げます。



リウマチ科

第二部長

かとう いちろう
加藤 一郎



歯科部長
つかだ こう
塚田 甲

歯科

<診療体制>

歯科外来は、月曜日から金曜日まで午前、午後とも診療しています。常勤歯科医2名、歯科衛生士2名の体制で対応しています。

外来新患および再来は完全予約制で、初めて外来を受診される場合はかかりつけ歯科医院からの紹介状が必要となります。詳しくは当院地域医療連携室にお問い合わせ下さい。

<診療内容>

周術期口腔機能管理、口腔外科領域の

治療および一般歯科治療を行っています。

周術期口腔機能管理では、全身麻酔下で行う手術の前後や化学療法中における口腔衛生および機能の管理を行っています。

また、口腔外科領域で診療している疾患は、抜歯、埋伏歯の抜歯、顎関節症、歯根嚢胞、口腔粘膜疾患などです。入院での対応も可能です。

当科の診療は、先生方皆様との連携が欠かせないものとなっています。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



健康診断部部長
ながさわ みほ
長澤 美穂

健康診断部

健康診断部は、非常勤も含め4名の医師で担当しています。特定健診、定期・雇い入れなどの一般健診、生活習慣病予防健診、人間ドック、特殊健診など様々な健診を行っています。

人間ドックでの上部消化管の検査は透視ではなく、最初から内視鏡で対応しています。また、泊りがけで行う1泊ドックではオプション検査として大腸内視鏡検査が可能であり、治療就労両立支援センターにお

いて生活・運動・栄養指導を受けることができる点など総合病院ならではのコースが設定されています。さらに、特殊健診としてじん肺、石綿、電離放射線、高気圧障害、振動障害、有機溶剤、VDTなど職業に関連した健診も行っています。

予防医学の面から皆様のお役に立てるよう診療を行っております。よろしくお願いいたします。



病理診断科部長
いわま のりゆき
岩間 憲行

病理診断科

病理診断科の平成30年度の検体は生検数が5,178件(8%増)、細胞診数が3,159件(4%増)、迅速診断数188件(8%増)と増加しています。先生方からご紹介いただいたお蔭と深く感謝申し上げます。今年もよろしくお願いいたします。

外科病理学の分野では、新しい治療薬の適応の検査、新薬による新たな副作用の組織像の出現などに直面しています。

さらに、遺伝子検査により判明した新たな疾患を含む新しい分類が用いられるようになってきました。改訂も多くなりました。

このような状況は、病理医に新しい知識を吸収することを迫っております。時代に適応した任務を果たせるよう一層の努力をしております。

救急科

当院に救急科が発足し2年目を迎えました。この間、日本救急医学会により救急科専門施設に認定され、仙台市救命コール事業、宮城県ドクターヘリ事業参加と、着実に体制が整備されると共に、順調に救急車搬入数も増え、おかげ様で年間3,500台を越えるまでになりました。

当院救急科は仙台市北部地域を中心とする近隣からの救急車を受け入れ、初期診療を行った後、適切な科に橋渡しする役割を担っていますが、敗血症、外傷な

どの疾患及び社会的背景によって帰宅困難な患者様については、地域に戻すまでの入院加療も行っています。

常勤医は赤田昌紀、武藤 満完の2名で月曜日～水曜日の日中は赤田、木曜日は武藤、金曜日は大学応援医師によって救急車の対応を行っています。

緊急性があり、救急車で送る様な状態の患者様につきましては可能な限り応需いたしますので、遠慮なくご相談下さい。



救急科部長

あか た まさのり
赤田 昌紀

腎臓内科

令和2年1月より腎臓内科医として着任いたしました神田と申します。常勤1名と大学病院からの応援医師で外来診療を行っております。入院対応も可能です。

検尿異常や腎炎、ネフローゼ、慢性腎臓病の他、透析患者さんの合併症など幅広く対応いたします。また、腎疾患患者は生活習慣病をはじめ複数の疾患を抱えていることも多く、関係各科と連携して

診療にあたってまいります。当院他科に入院が必要となった患者さんの入院中の透析管理も対応いたします。

1名体制であり至らない点多々ありますが、地域の先生方の御期待に添えることができるよう精進してまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



腎臓内科 医師

かんだ まなぶ
神田 学

東北労災病院 外来診療担当表(令和2年1月10日)

科/部門	曜日	月曜日					特殊外来・各種教室等			
		火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	名称	曜	時間		
内 科	胃腸内科	白木 学	浜田 史朗	小島 康弘	浜田 史朗	小島 康弘	院外新患は毎週月・金曜日の午後 (予約制)			
		齋藤 晃弘	武田 瑠平	近藤 稷	白木 学	近藤 稷				
		齋藤 紘樹		半田 朋子	清水 貴文	小野 義高				
	内視鏡	上部	大原 秀一 浜田/近藤	大原 秀一 近藤/半田	大原 秀一 浜田/齋藤(紘)	大原 秀一 近藤/半田/山川/武田				大原 秀一 浜田/齋藤(晃)/玉淵/清水
		下部	小島/清水	小島/白木/小野	白木/玉淵/武田	小島/齋藤(晃)/齋藤(紘)				白木/半田/武田
	肝臓科	小林 智夫	阿部 直司	阿部 直司	阿部 直司	外来担当医				
		山川 暢		山川 暢	小林 智夫					
	腫瘍内科	森川 直人	丹田 滋	丹田 滋	森川 直人	丹田 滋				
	緩和ケア内科	小笠原 鉄郎11:00~12:00	小笠原 鉄郎9:00~12:00	小笠原 鉄郎11:00~12:00	小笠原 鉄郎9:00~12:00	小笠原 鉄郎11:00~12:00				
	糖尿病・代謝内科	熊谷 絵里(登録医新患)	鴫田 藍(登録医新患)	中村 麻里(登録医新患)	今野 陽介(登録医新患)	鴫田 藍(登録医新患)				
	循環器内科	田中 光昭(新患)	高橋 貴久代	宇塚 裕紀(新患)	田中 光昭(新患)	田中 光昭(新患/第1・3・5)				
		高橋 貴久代(再来)		応援医師(再来)	宇塚 裕紀(再来)	高橋 貴久代(再来)				
	高血圧内科	金野 敏	宗像 正徳	宗像(第1・3・5)、金野(第2・4) (院外新患のみ)	宗像 正徳	金野 敏				
	腎臓内科		神田 学			神田 学				
			応援医師(第2・4午後のみ)							
呼吸器内科	三浦 元彦	榊原 智博	田代 祐介	三浦 元彦	榊原 智博	喘息外来 (予約制)	月	14:00~ 15:00		
	田代 祐介	大塚 竜也	中村 優	中村 優	大塚 竜也	重症喘息外来 (予約制)	木	14:00~ 15:00		
		谷津 年保	伊藤 あゆみ	谷津 年保		禁煙外来 (完全予約制)	第2・4 水曜	14:00~ 16:00		
呼吸器外科	保坂 智子			畑岡 知里	保坂 智子					
心療内科	町田 貴胤	町田 貴胤	町田 貴胤	町田 貴胤	町田 貴胤	新患は火・水曜日のみ 完全予約制				
	町田 知美	町田 知美	町田 知美	町田 知美	町田 知美					
小児科	千葉 靖	千葉 靖	高柳 玲子	高柳 玲子	千葉 靖	午後診(すべて予約制) 乳児健診(千葉明子): 1/14・28の火曜14:00~ 乳児健診(小島): 木曜14:00~ 予防接種: 火曜14:00~ 神経外来(山本): 第4水曜14:00~ 腎臓外来(千葉靖): 木曜14:00~				
	高柳 玲子	沼田 美香	沼田 美香	小島 三千代	沼田 美香					
	応援医師		—		応援医師					
外 科	消化器外科	成島 陽一	成島 陽一(新患のみ)	徳村 弘実	徳村 弘実	ヘルニア外来: 月・水・木 胆石外来: 月・火・水・木 胃外科: 水(受付14時まで) ストーマ外来: 火曜午後予約制				
		佐藤 馨		西條 文人	赤田 昌紀				武藤 満完	
	大腸肛門外科		高橋 賢一 羽根田 祥							
乳腺外科	本多 博	※本多 博(午後新患のみ)		千年 大勝(第1週) 吉田 清香(第2週以降)	(午前)本多 博 (午後)千年 大勝	※乳腺外科: 月・火・木・金の午後は 新患のみで予約制				
整形外科	関節	信田 進吾	小河 裕明	①信田 進吾	②小河 裕明	信田 進吾	①信田進吾 第3水曜日 午後不在 ②小河裕明 第4水曜日 午後不在			
		奥野 洋史	奥野 洋史	小河 裕明		奥野 洋史(午前のみ)				
	脊椎	佐藤 諒	佐藤 雄紀(午前のみ)	佐藤 諒	佐藤 雄紀(午前のみ)					
脳神経外科・脳卒中科	柏原 茂樹(午前) 高橋 智子(午後)	柏原 茂樹(午前)		柏原 茂樹(午前) 高橋 智子(午後)	柏原 茂樹(午前) 高橋 智子(午後)	※月・木・金曜の午後の受付は 14:00まで				
老年内科			佐藤 琢磨(第3週のみ)			第2・4・5週は心理検査のみ【完全予約制】				
皮膚科	國方 なぎさ	矢崎 緑	國方 なぎさ	國方 なぎさ	國方 なぎさ	※水曜受付10:00まで				
泌尿器科	谷田 宗男	中嶋 夏磯	谷田 宗男	中嶋 夏磯	谷田 宗男	月・火・木午後検査(予約制)				
	阿部 優子(新患)	浪間 孝重	浪間 孝重	櫻田 祐	新患担当医					
産婦人科	浪間 孝重	島谷 蘭子(新患)	島谷 蘭子(新患)	島谷 蘭子(新患)	阿部 優子	毎週水曜日のみ女性医師の担当あり (予約制)				
	星合 昊	星合 昊	星合 昊	星合 昊	星合 昊					
眼 科	植松 恵(午前のみ)	植松 恵	植松 恵	植松 恵	植松 恵	※月曜 手術日(受付11時まで) ※火曜・木曜 手術日(受付10時まで) ※水・金曜 午後検査(予約制)				
	—	小杉 真代	小杉 真代	小杉 真代	小杉 真代					
耳鼻咽喉科	渡邊 健一	渡邊 健一	渡邊 健一	渡邊 健一	渡邊 健一	手術日 月・水・金 再来予約制 舌下免疫療法: 木曜午後(完全予約制)				
	織田 潔	織田 潔	織田 潔	織田 潔	織田 潔					
	小澤 大樹	小澤 大樹	小澤 大樹	小澤 大樹	小澤 大樹					
	鵜沼 むつ貴	鵜沼 むつ貴	鵜沼 むつ貴	鵜沼 むつ貴	鵜沼 むつ貴					
	小泉 祥太郎	小泉 祥太郎	小泉 祥太郎	小泉 祥太郎	小泉 祥太郎					
—	大山 健二	大山 健二	大山 健二	—						
リハビリ科	小松 恒弘	心リハ外来	心リハ外来	小松 恒弘	心リハ外来	新患は要電話確認				
放射線治療科	田邊 隆哉	田邊 隆哉(新患)	田邊 隆哉	田邊 隆哉	田邊 隆哉(新患)	完全予約制(要電話予約)				
リウマチ科	—	畠山 明	畠山 明(新患)	—	畠山 明	完全予約制 新患は電話で予約				
	加藤 一郎	加藤 一郎(新患)	加藤 一郎	—	加藤 一郎					
歯 科	太田 宗夫	—	—	太田 宗夫	—	完全予約制				
	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲					
	永井 浩美	永井 浩美	永井 浩美	永井 浩美	永井 浩美					



独立行政法人 労働者健康安全機構 東北労災病院

〒981-8563 宮城県仙台市青葉区台原4-3-21

受付時間 8:15~11:00

代表電話 022-275-1111 代表FAX 022-275-4431

地域医療連携センター

直通電話 022-275-1467 直通FAX 0120-772-061